Obihiro Bible Institute
OBI
お茶の水聖書学院
NEWS

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-1
OCCビル 2F
TEL 03-3296-1005
FAX 03-3296-4641
e-mail office@obi-net.com
Web http://www.obi-net.com
お茶の水聖書学院
お茶の水聖書学院後援会

変わるものと変わらないもの

副学院長　藤原　導夫

「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気を我に与え給え。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与え給え。そして変えることのできるものと、変えることのできないものとを識別する知恵を与え給え。」アメリカの神学者ラインホルド・ニーバーのものとして知られている祈りです。ここに求められているような知恵や冷静さや勇気を神様に祈り願い、それらを豊かに与えられる人は幸いだと思います。

私たちOBIも、同じように神様に祈り求め、神様からそのような知恵や冷静さや勇気を豊かに与えていただきたいと願っております。今は、OBIが身を低くしてそのように神様の前に祈り深く歩むことがとりわけ求められている転換期であると思わされております。1991年に始められたOBIの働きは、20年近くの歴史を刻んで今日に至りました。そのような中、先日の理事会・評議員会では学院長である増田誉雄先生の推挙により、新しく学院長代行として世良田湧侍先生の就任が承認されました。これもまた、変わりゆく歴史の流れの中で、OBIもそれにふさわしい対応を求められていることの証左であろうと思わされております。

冒頭の祈りにもありますように、OBIにとって変えてはならないものは何か、変えていかなければならないものは何かを識別する知恵が必要となっています。そして、その知恵に導かれながら、冷静に事柄に取り組み、時には勇気を持って大胆に決断を下していかなければなりません。

ヘブル人への手紙13章8節には、「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変わることがない」（口語訳）と記されています。私たちOBIは過去、現在、将来にわたって決して変わることのないお方として、イエス・キリストを仰ぎ続けてまいりたいと思います。ピリピ人への手紙1章10節にはパウロの祈りが記されています。「あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。」私たちOBIは真にすぐれたものを見分ける識別力を身に付けることができるように願い、教師も学生も共にその力を養われてまいりたいと思います。OBIがそのような学院として、これからも歩んでいくことができますように、引き続き皆様方のお祈りとご理解とご協力をぜひともよろしくお願い申し上げます。

第十六回卒業式

3月7日午後2時から第16回ＯＢＩ卒業式がＯＣＣ８階チャペルで挙行され、7名の方々が卒業されました。

学院長の挨拶

卒業の喜びと感謝

三村のぞみ

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」（詩篇１０３・２）

ＯＢＩの学びの扉が開かれたのは今から5年前の事です。御茶ノ水に行くのには少し勇気が必要でした。なぜなら、亡き母が召された病院があった所だからです。もう20年以上も前の事ではありますが、それ以来、行く事もなかった御茶ノ水に行く事に抵抗を感じていました。

学びに向かう道、病院を見ないようにしたり、その時の事が思い出され涙しながら学校に通う事もありました。

しかし、5年の月日の中で、ゆっくりと癒されて行ったように思います。悲しみよりもその中に差し伸べられていた神様の守りの御手を見ることができ感謝できるようになりました。

なぜＯＢＩへ導かれたのかと思っていた気持ちへの答えをいただいたように思います。

先生方には本当にお世話になりました。みことばに生きる姿を見せて頂き、優しくわかりやすく、また力強く聖書の世界へと導いて下さいました。

聴くお話に目から鱗と驚きを覚えたこともありました。聖書の学びがこんなに楽しいものなんだという事を実感しました。

又、同じ志を持って学んでいる兄姉から教えて頂く事が沢山あり、何よりも暖かな交わりが与えられた事は励ましでありました。色々な方と交わりが持てたのも神様からのご褒美だと思っています。

感謝なことに、ＯＢＩ卒業式の翌日、教会の主日礼拝で説教学の時間に演習した説教を早速させていただきました。

卒業式全体写真

これからもＯＢＩで学んで受けた数々の恵みや、みことばの真実を子どもたちや周りの方たちに伝えて行きたいと願っています。

卒業式は多数の先生方やＯＢ、家族の見守りの中、厳粛に執り行われました。式後の謝恩会では沢山の励ましを受け心温まる天国の前味のようなひと時でした事をここに御報告させていただきます。

主の御名を賛美し崇めます。

通信科での卒業

阿部幸平

通信科で聖書を学ぶ事が出来たことを感謝します。会社の勤めとＯＢＩの学びを両立させることが思ったより大変でした。職場の配置転換があり新しい仕事を覚えながら、夜はＯＢＩの勉強をしました。そして、ついに卒業証書を授与されたときには感激しました。神様が助けて下さったからこそ卒業することができました。ＯＢＩ

では多くの先生方と兄弟姉妹との交わりのなかで、この世にはない主にある愛の交わりを経験させていただきました。

通信科に入学して1年が過ぎたころ、牧師が体調を壊し礼拝の説教ができなくなり、代わりに私が説教をすることになりました。そして奉仕してゆくなかで自分の信仰の偏りを示され、聖書全体、新約聖書と旧約聖書の両方を調べて読まなければと思いました。

説教の方法を学ぶ必要を感じて藤原導夫先生の「説教学」を取りました。

「道々お話しになっている間も、聖書を説明してくださった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」(ルカ24・32)

聖書の真の説き明かしに触れたとき心はうちに燃えた。説教者はキリストと不断の交わりによってうちに燃やされる。聖霊に頼って奉仕したいと思います。

私はまだスタートしたに過ぎず、OBIでの学びを基礎として、この上にさらに聖書の学びを深めたいと思います。

入学式・始業式

報告

同窓会会長　第6期生　三浦秀彌

4月6日(月)午後6時半から2009年度のOBI入学式・始業式が8階チャペルで行われました。

式は讃美歌164番の会衆賛美と藤原導夫副学院長の開会祈祷を以て始まりました。学院長代行に新任された世良田副学院長が司会に立ち、奏楽は音楽科斎藤とし子先生、独唱は遠藤かおる先生でした。

挨拶に立たれた増田学院長は、Ⅱテモテ2章15節『あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばを、まっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるように、努め励みなさい』から「私のミッション・ステートメント」として、証し、真理の器としての自覚を促し、その中心はキリスト、その土台は神のみことばである聖書、その目標は信徒教育であり、主の御体、教会を立て上げられる器になることを説かれました。

さらにOBIは今年も主にあって感謝、感激、感動をいただき、新しい出会い、生き方、生き甲斐の場になることを強く勧められました。

続いてOCC理事長村上宣道師から新しく学ぶ者の心構えについてメッセージを賜りました。

先生は、Ⅱテモテ3章14～17節を取り上げ「聖書の学びは最高の感動!」「真理の揺るぎない確信」、「親しむ聖書」、「学びの目的」、「救いへの知恵と救いの賦与」、「信仰生活の基準」、「神の人」の諸要点を簡明に力強く説かれました。

さらに、Ⅰテモテ6章11節から、神の人とはすなわちクリスチャンのことであり、神に仕える敬虔な人を指すと説かれ、同4章7節の『敬虔のために自分を鍛錬しなさい』についてくわしく語られました。

鍛錬する(ギムナゾー)とは、裸になって一から出直すことである。今まで自分が身につけていた誉れも、思想も、立場もすべて脱ぎ捨て、虚心坦懐、おさな子のようになり、裸でヨルダン川に身を沈めたナーマン将軍のように新しい初々しい力をいただき、神の人として整えていただきましょうと、力強く勧められました。

全員起立して賛美歌313番『主よ　終わりまで　仕えまつらん』を献身の決意を強くこめて賛美し、最後に堀　肇師の祝祷を以て、閉会しました。

今年度入学された兄姉は、聖書科10名、教会音楽科1名でした。

在校生ともども、今年も主から祝福をいただいて恵み豊かな学びの年となりますように切望し祈ります。

学窓トピックス

・聖書科・聖書科通信・音楽科

○　２００９年３月７日（土）ＯＣＣ８Ｆチャペルで、２００８年度の卒業式が行われました。参加者55名。以下のとおり５団体、７教会へ卒業生を送り出すことができました。

○　ＯＢＩ現地研修ツアー〈ローマをめぐるパウロから現代までの教会の歩みを辿るイタリアの旅・目で観て感じる教会史〉を２００９年２月９日（月）～16日（月）の日程で開催しました。本誌５～７頁にてその恵みを報告しております。在学生希望者には単位（２単位）が認められます。なお、教室授業以外での修得単位は、４単位まで認められます。

○　教室の「おびねっと」で、認定単位確認、履修登録ができます。またインターネットで履修登録ができます。ご不明な点は、お気軽に教務の福井までお問い合わせください（educationaldpt@obi-net.com）

○　２０８号室に書架が入りました。図書は、教室と２０８号室二カ所に設置されました。

○　本年の夏季スクーリングは、泉田昭先生（練馬バプテスト教会名誉牧師、日本キングスガーデン理事長）を講師に迎えます。テーマは、「現代におけるキリスト者の倫理」です。お申し込みは事務局までご連絡ください。

卒業生氏名	団体名	所属教会名	卒業研究
横田孝子	日本同盟基督教団	古河キリスト教会	キリスト者としての「死」の考察
奥津晃	日本福音キリスト教会連合	中山キリスト教会	イザヤの預言と新約聖書への引用
三村のぞみ	日本福音キリスト教会連合	白岡福音キリスト教会	イエスと出会った人たち
阿部幸平	日本宣教会	小千谷キリスト宣教会	説教と聖霊
石塚幸子	日本福音キリスト教会連合	水海道シャローム教会	「水海道シャローム教会」の歴史を求めて「リーベンゼラ・ミッション」の起源とその設立の背景
加賀谷紀子	単立	城山キリスト教会	魂への配慮に生きる教会―《ともにいる》こと
吉田加代子	日本福音自由教会	東京武蔵野福音自由教会	スペインにおける宣教の歴史（中世まで）および滞在エピソード

イタリア研修旅行報告

アッシジを訪ねて

市川北バプテスト教会牧師
藤原導夫

私の書斎の壁にはもうセピア色に変色してしまった一枚の写真が額に入れて掛けられている。イタリヤのアッシジの風景の中にたたずむ古い教会の写真である。実は、私が牧師として北海道・室蘭開拓伝道におもむく際に、写真家であった信徒の方から贈っていただいたのであった。写真には手紙が添えられており「寒い北国へ転身なさる若い先生に心から敬意を表し、この写真を贈ります」といった旨のことが記されていた。

アッシジは、聖フランチェスコが生まれ、活躍した地として有名である。フランチェスコの「平和の祈り」は今でも多くの人によって親しまれ祈られている。私はその絵を見上げる度に、フランチェスコを思い、もう故人となられたがその写真を贈ってくださった方を思うのであった。牧師としての生活を送ってきた私にとって、アッシジを訪れるなどということは夢のまた夢でしかなかった。しかし、その写真をいただいた40年後にその夢のまた夢が実現したのであった。

アッシジ聖ペテロ教会

お茶の水聖書学院の「イタリアの旅8日間」の旅程（2009年2月9日～16日。訪問地はミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、アッシジ、ローマ。団長は横山武先生。参加者26名）の中にアッシジが組み込まれ、私はチャプレンとしてその旅に同行することとなったのである。何という不思議であろうか。私は額から外した写真とその方からの手紙を携えた。果たしてその写真の教会に出逢えるであろうか。アッシジに近づくにつれ不安は増大した。私は現地のガイドにその写真を見せてその教会の所在をたずねた。ガイドはこれから行く予定の丘の上からその教会が見えますよと答えてくれたのであった。何という驚き。40年の歳月を経たものの、写真そのままの教会が眼下に凛（りん）としてその姿を見せていたのであった。ガイドは告げてくれた。この丘の上から、その方は写真を撮ったに違いありません。

私の心は深い感動に満たされていった。40年前に祈りと愛をもって若い私を北の国へと送り出してくださった主にある兄弟。そのような多くの兄弟姉妹の祈りと愛の支えによって今の自分があることを改めて深く思わされたのであった。また、このように思いがけない不思議なかたちで夢を実現してくださった神様。これまでの自分の人生を振り返り、取るに足りないこの私、罪深い存在でしかないこの私を、このようにまでして恵み深く扱ってきてくださったことを思い、言い表すことのできない感動に全身が包まれたのであった。

アッシジ聖フランチェスコ聖堂

イタリアの旅を振り返って

第4期生　佐藤　敬

2月9日ＪＡＬ４１７便にて13時50分成田空港を出発。同日夕刻ミラノに到着。

二日目　私たち一行26名のイタリア巡礼の旅は8時でも薄暗い、小雨降るミラノの町から静かに始まった。主の取り計らいで二つのグループに分かれてではあったが、ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」を見ることが許された。旅を通して頂いた数々の恵の始まりであった。オペラの殿堂スカラ座、５００年の歳月をかけて建造されたドゥオーモを見学後、バスでパドヴァへ移動。スクロヴェーニ礼拝堂でジョットの「イエス・キリストの生涯」の壁画を観る。ヴェネツィア郊外にて宿泊。

三日目　本土から船でヴェネチアへ。船の左右に現れる水の都の景観は実に美しかった。温暖化で一年のうち２５０日以上浸水するという。８２９年、エジプトから豚肉の間に隠して持ち込まれた聖マルコの遺骸を祭るために建立されたサン・マルコ寺院は高く造られた仮設道路を使わないと入れない。床の傷みも激しい。午後フィレンツェに向かう。

ピサの斜塔

四日目　ピサの斜塔を見学後フィレンツェに戻る。小高い丘にあるミケランジェロ広場から一望出来る街はまさに華の都だ。教会史的にはプレ宗教改革の地として意義深いと伺う。赤い屋根の花の聖母教会、街の変遷を見続けてきたシニョリーア広場を抜けてウフィツィ美術館を訪れる。自由行動の折、少し散策するだけでいくつもの教会や宮殿に行き当たる。ルネサンス開花期往時が偲ばれる。

五日目　とうとうアッシジの日が来た。車窓前方にそれと認めた時、こみ上げる涙を抑えられなかった。マザー・テレサ初め、多くの人々に強い影響を与え、又、信仰の原点となった聖フランシスコの里。私も例外でない。あの時、この聖人との出会いがなかったら、私の信仰は崩折れていたかもしれない。主の奇しいご介入であった。十字架のキリストに「私の教会を修復せよ」と命を受けて修復したポルツィウンコラを包み込むサンタマリア・デリ・アンジェリ教会、仲間と建てたリボルト教会、チマブエやジョットのフレスコ画が美しく、お墓もあるサンフランチェスコ聖堂では平神父自ら案内をして下さった。町全体に悠久の静寂が漂う。バスに乗り込んだ時、魂を置いてきたようであった。

六日目　ローマでの初日は見事に予報が外れて、抜けるような青空が広がった。風が冷たい。まずはヴァチカン美術館、「最後の審判」のシスティーナ礼拝堂、サンピエトロ寺院へ。その規模たるや圧巻の一言に尽きる。午後は多くのクリスチャンが殉教したコロッセオ、エルサレム宮殿のメノラーが刻まれるティトスの凱旋門、フォロ・ロマーノ、パウロとペテロゆかりのカルケル・マメルティーノ牢獄など見学。

七日目　ホテルの一室で聖日礼拝を捧げた後、「ローマの休日」巡り。真実の口に手を入れて記念撮影。スペイン広場、トレビの泉観光。午後はアッピア旧街道沿いのフォーリ・デ・レムーラ教会、カタコンベ、最後はパウロの斬首地、トレフォンターネで締めくくられた。

ミラノ大聖堂

八日目　病気、怪我、盗難初め、あらゆる難から守られて、全員無事帰国。使徒たちの迫害、殉教の時代から、幾多の政治的、経済的、社会的枠組みの変遷の中に示されてきた神様の憐れみは限りなく、信仰を根絶やしにされることはなかった。

いみじくも今年は日本プロテスタント宣教１５０周年である。長崎、平戸で殉教した先達に、又、戦中戦後におけるキリスト者の背きの罪に思いを馳せる間もなく、またまたリーダーの不祥事である。西欧においても、日本においても、キリスト教(会)史は神様の憐れみなくしては存在し得ないと気付く。そして今、こうして私たちもそれぞれの信仰のあり方を通してその歴史作りに参加させていただいている。感謝の言葉もない。

敬愛するパウロ先生

第12期生　福井ちよ

先生の足跡をたどる旅を始めたのは２００５年3月のアテネからでした。

アレオパゴスの丘の上で巨大なパルテノン神殿を見上げ、先生は「この世とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。」と大声で叫んでおられました。

マケドニアのピリピでは、先生がシラスと入れられていたという石牢を見ました。アーモンドの木が花盛りのエペソの町では、円形劇場になだれ込む群集の中に、もみくちゃにされた先生の姿を見たような気がします。先生にはもう一度エペソに行く機会はなく、ミレトに呼び寄せたエペソの長老方に、「主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることが出来るなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。」と証されました。その気持はエルサレムで捉えられカイザリアの港からローマに連行されていく時にも変わらなかったのですね。

バチカン広場の写真

２００９年2月、私はとうとう殉教された地、ローマにやってきました。一回目に入れられていたというカルケル・マメルティーノの地下牢は真っ暗で、宣教し、書簡を書くには劣悪な所でした。次に向かった教会は先生が二回目に入れられ、ひどく迫害された牢獄の上に立っていました。処刑場へ続く石畳を先生はどのような思いで歩かれたのでしょうか。日が傾きかけた並木道の傍らで、アカンサスの葉が風に揺れていました。

先生が斬首された跡に立つトレファンターネ教会は驚くほどの静寂と温かな主の愛に満ちていました。

先生、すべての旅を終えた今、私はあなたの獄中書簡を読むたびに泣けてしまいます。ローマで最後に見た等身大のパウロ先生は傷だらけで衰弱されておられましたが、先生の中で更に燃え上がった信仰の炎は、どうやら世界中に飛び火したようです。

追伸　いつか旅のお仲間とパウロ先生の炎の跡をたどり、ドイツ、ヴィッテンベルク城教会、北扉の前に立ちたいと思っております。在主

トレファンターネ教会入口

OBI会計報告

主の御名を賛美します。

いつもOBI会計のためにご加祷、ご支援を賜りありがとうございます。

2008年OBI会計年度を終え、主の祝福を数えながら感謝のうちに決算作業を進めています。

一年間を振り返ってみますと、OBIの諸活動とともに、会計においても主がどれほど大きな恵みを与えてくださったか、その奇跡ともいうべき鮮やかなみわざを確認することができ感謝に絶えません。

諸教会、諸団体、諸企業、諸先生方を初め信徒の皆様お一人一人に重ねて心から感謝申し上げます。

2009年も主がOBIの歴史を恵みのうちに主導してくださることに期待しながら、一致協力して託されている働きに邁進して参ります。

今年も続いてご指導、ご協力をお願い申し上げます。

◎OBI献金ご芳名録

（2008・12・21～2009・4・3）

▽OBI協力献金

中島總一郎　国東恵子
久保田庸子　高橋まりか
田畑勝敏　加茂康一
小玉久美子　シムス・由季子
田中美枝子　戸川偕生
真野悦子　大渕セツ　萩原滋
五味渕玲子　三浦秀彌
川端安弘　石井由紀
鬼京由紀子　南澤孝夫・貴美子
倉内一寿　嶋本洋子　高野富男

▽特別献金

山崎製パン株式会社
飯島記念食品科学振興財団

（卒業祝）
飯島延浩
OBI同窓会

▽感謝献金

（団体）
ホサナキリスト教会
古河教会
イタリアの旅参加者一同
ミニコンサート参加者
日本バプテスト教会連合

（個人）
佐野謙次

OBI後援会報告

（2008・12・21～2009・4・3）

『OBIを祈り支える後援会』は発足以来、卒業生、在校生を中心に関係各位のご協力をいただいて今日に至っております。

今年も維持献金の新規申込者を募っています。ご自分のゆうちょ銀行預金口座から、自動振替の手続きをしていただけるとたいへん感謝です。金額は一口千円からです。

ご賛同、ご協力いただける方には所定の申込書をお送りします。事務局までご一報いただけたら幸いです。

電話03・3296・1005

◎後援会維持会員（個人）

有田貞一　有田美榮子　芳賀功
中島總一郎　飯島多稼夫
日名富子　猪狩友行　小野沢恵子
金本悟　木下順子　国東恵子
窪井節子　小林喜久男
斉藤とし子　佐藤敬　佐野謙次
佐野寿美子　須子都　関節子
世良田湧侍　田中恵子
中川和代　浪井弘子　西　満
平松庸一　福井誠　藤原導夫
増尾善文　増田誉雄　松岡常子
三浦喜代子　三浦秀彌
宮本三枝子　目崎由紀子　森　登
森本馥　依田和子　植木朋子

◎後援会協力献金

（個人）
羽鳥明　脇坂勇　山口勝政
近藤はるみ　西　満　森　登
黒澤すぎの　田中恵子

（団体）
中山キリスト教会
練馬神の教会

▽冬季献金（12月21日以降）

（個人）
佐藤光　王永天　上田留美子
石塚幸子　堀口容子　佐藤敬
才門正男　西川和子　尾原光彦
中村良子　有田貞一　平田仁美
中平悦子

（団体）
前橋上泉町教会